

# Nature Preschool (森のようちえん) ①

<非営利団体・クラブハウス主催>

お話し：Ms.Audrey Noga

資料提供：VIEC ケローナ

レポート：中能孝則

横田聖美

## 1. はじめに

NPO クラブハウスが運営する森のようちえんはオカナガン地方で初めて認可された・森のようちえんです。全敷地面積は 12.5 エーカー (50,587 平方メートル:東京ドームとほぼ同じ)、そのうち 5 エーカーがフェンスに囲まれたアクティビティエリア (見える範囲)、残りのエリアのうち 7.5 エーカーが自然環境をそのままに残した森となっています。

よほど極寒の天候や嵐でない限り、雪でも雨でも、トイレ以外の時間は全て屋外で過ごします。森では動物の歩いた足跡を追跡調査したり、生息する植物を観察したり、先生と一緒に子どもたちは思い思いの時間を過ごします。

敷地内にはかなり深い砂場、芝生広場、自転車乗り場、水場等の自由に遊べる場所と、飼われているにわたりの観察、とうもろこし畑、虫探し、ハンモックに揺られて語らいのひと時、りんご狩り、ブルーベリーやかりん、キイチゴの収穫など、子どもの好奇心を掻き立てる環境がそこにはあります。

現代のカナダ人は 90%の時間を屋内で過ごしているといわれています。子どもたちが大自然に触れる時間を大切に、そしてそこからサステイナブルな (継続可能な) 生活を実現する力を育みます。施設は現在、週 3 回のプリスクール以外にも、外部のプリスク



<森の中で自由に遊ぶ>

ールや小学校に施設開放やプログラム提供を行っています。

## 2. 概要 (費用などのレートは 85 円で計算)

- ① 2012 年にオープン、7 か所の保育施設 400 人の園児がかわるがわる遊びに来ている。週 3 日のプリスクールもある。学校が休みの日には学同クラブとして遊びに来ている
- ② 参加費は 1 ケ月 300 ドル (約 25,500 円) 基本的にはパッケージになっていて、学童クラブなどに行っている子が参加するときにはそちらの費用から支払われる。
- ③ 長期休みの時には、1 週間 175 ドル (約 15,000 円)。
- ④ ケローナ市から年間 30,000 ドル (約 2,550,000 円) の補助が出ている。

- ⑤ ドネーションも増えてきているが、基本的な使い道は：市民の意識改革のためのマーケティングに使われている。（意識改革）
- ⑥ スタッフ  
フルタイムの常勤者はいない。大工などのエクストラスタッフ。マネージャー、保育係、バスドライブ。学童クラブなどが来る時にはそのスタッフも同行してくる。
- ⑦ 子どもと大人の割合。

\*小学生から中1までは。子ども 15 人  
に対して大人 1 人プラス  $\alpha$  で対応

\*幼児の場合は 子ども 10 人  
に対して大人 1 人プラス  $\alpha$  で対応

### 3、活動の様子

- ① 各地からバスに乗って集まってくる、施設内では自由に遊ぶ。今日はヴィクトリアデーで学校が休みとのことで。結構大きな子どもたち 40 人も参加していた。
- ② 約 1 時間くらい遊んだあとで、おやつタイムとなり小さい子から順番に食べていた。食べる場所は自由、ここで人数の確認がされ今日は何をするか話し合うグループもある。
- ③ アクティビティーは自由参加で、私たちは森遊びに同行させてもらった。小川の流れる森の中に入り、整備されたトレールを歩きました。あまり大きくない森のように感じましたが、シカやクマを始め小さな動物が出ることもあるとのことで、催眠スプレーを持参してまいりました。途中危険な植物についてのみ注意があり、あとは自由に遊んでいました。

### 4、Ms.Audrey Noga さんのお話から

- ① 参加者の中には、多動性を始め、集中力に欠ける子、集団になじめない子など、支援の必要な子もいるが、自然の中に出ると自分のスペースを見つけて遊ぶ子が多くなる。そしてほかのこと分からなくなるくらい自然の中に溶け込んでいることが多い。
- ② 壁のない自然の中で遊ぶことで自分から、殻を破って出てくる子もいる。
- ③ 問題を持つ子は、屋内の活動で常に注意されていることが多く、そのことがストレスになっている。自然の中では自由なので、ストレスも感じなくなると思う。
- ④ リンゴなども自由に取らせるが、一つ取ってはかじって捨てる子もいる、そういう時には、『無駄にしないで、それはどうしてか』ということを具体的な内容で教えるようにしているが、基本的には自分たちで考えることができるようにしている。
- ⑤ 自由に遊べる環境を整えておく。すると考えて行動するようになる。
- ⑥ 屋内にいると様々な問題が出てくることが多いが、自然の中ではそれがなく、自然保育の素晴らしさを実感している。周りの人たちにも理解をってもらうように努力している。
- ⑦ 室内の活動は、結果的にがんじがらめになっていることがある、野外だと解放感もあり、子どもたちが、自由に学べる環境が準備されている、
- ⑧ 約束事は『けがをしないで』と願っている。室内で怪我をすると小さな怪我でも、大騒ぎになることがあるが、野

外に出ると、擦り傷やかすり傷、小さな怪我など、子どもたちはあまり気にしていない。

- ⑨ シャベルなども本物をそろえている。本物を使わせることが大切である。
- ⑩ 子どもたちの『手伝いたい』という思いにこたえるために、手伝えるものを準備している。すると帰属意識も出てくるし、何を手伝えばよいか、自分から気が付くことに発展し、子どもの中から『手伝おうか』という声も出てくるようになる。
- ⑪ 遊びの効果の一つとして、自分でやってみたくなる、自分でできないと知恵を出すようになり、仲間にも声をかけるようになる。
- ⑫ 子どもの強さは、助けることではなく、自分で立ち上がるから強くなれる。
- ⑬ 屋内にいるとチャンバラなどは危ないということから禁止になるが、「なぜ危ないのか」を学ぶ機会がないまま育っていくこともある。
- ⑭ 屋外では、長い棒を持っていても「けがをしないでね」と声をかけただけで、自分でコントロールできることを考えてもらうことができる。禁止事項ではなく、創造して遊ぶことが大切で、指導者は見ていないようで見ていることが大切。
- ⑮ 危ないからやめさせるのではなく、どのように遊べば危なくないかを体験して学ぶ機会とする。
- ⑯ 室内遊びはルールを決めて監視しているがそれは

子どもと指導者が一方通行になる。それは自分が楽だから。保育者にも顕著に表れてくる。

- ⑰ 自然の中での遊びは、両方向であり、指導者もおおらかに対応できている。子どもも自分がやっていることに集中できる。
- ⑱ こどもは『ほんとうはなにを求めているか』を考えることが大切。

## 5. 感想

「30年前から教育の形が変わってきている」「自然の中ではすべての子どもたちが芸術家になる」というオードリーさんの話を伺い、本当にその通りで、「これからどのような姿勢で何をしていけばいいのか」自分たちのこれからの仕事に活かしていきたい。

そして活動を軸に、理念と方針があり、そのことを具体的に実行しているように思えた。何より若いスタッフが、いろいろな質問をしていることが輝いて見えていた。



<りんごの木下で自由に遊ぶ>